

### 3 古墳時代の遺構

#### (1) 打込み柱建物跡

##### SB 1 4 (第61図・図版43・44)

E区の中央やや西寄りで、SG 1 1の東側約7mに位置する。南北3.36~3.48m、東西3.32~3.40mの1×1間の打込み柱建物跡で、南北の中軸線はN-18°-Eである。柱の太さは14.4~15.6cmを測る。樹種は栗で、1/3~1/4割材を整形して用いる。検出面からの深さは5.5~8.4cmで、4本すべてがX層まで打ち込まれる。

#### (2) 土坑

##### SK 1 3 (第62図・図版45)

E区中央付近の北壁際に位置する。一部調査区外になるが、平面プランは不整な梢円形を呈し、東西2.1m、南北2.5m以上を測る。検出面からの深さは1.8~2.0cmを測り、緩やかな船底状となる。2層目には炭化物や土器の破片を多く含み、底面上からは内黒の高坏(2)などが出士した。

##### SK 1 5 (第62図・図版42)

E区東部の北壁際に位置する。ほぼ完形の壺(37)が単独で出土した。土器は底部を北東に向け、ほぼ真横に寝た状態で検出された。伴出する遺物はない。

#### (3) 川跡・溝跡

##### SG 1 1 (図版43)

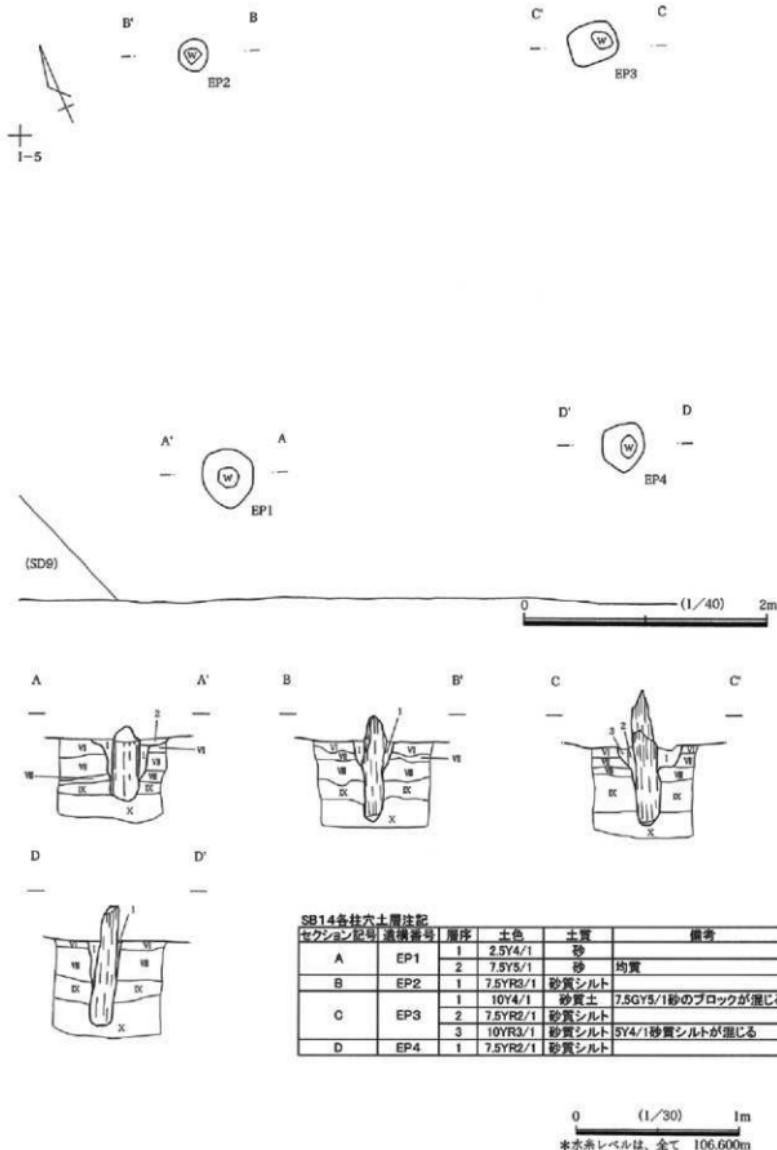
E・F区のほぼ中央付近で検出された。幅は2.8~4.2m、検出面からの深さは7.5~8.3cmを測り、南から北へ流れる。覆土中からは土師器の破片や自然木などが出土する。

##### SD 3 (第63図・図版45)

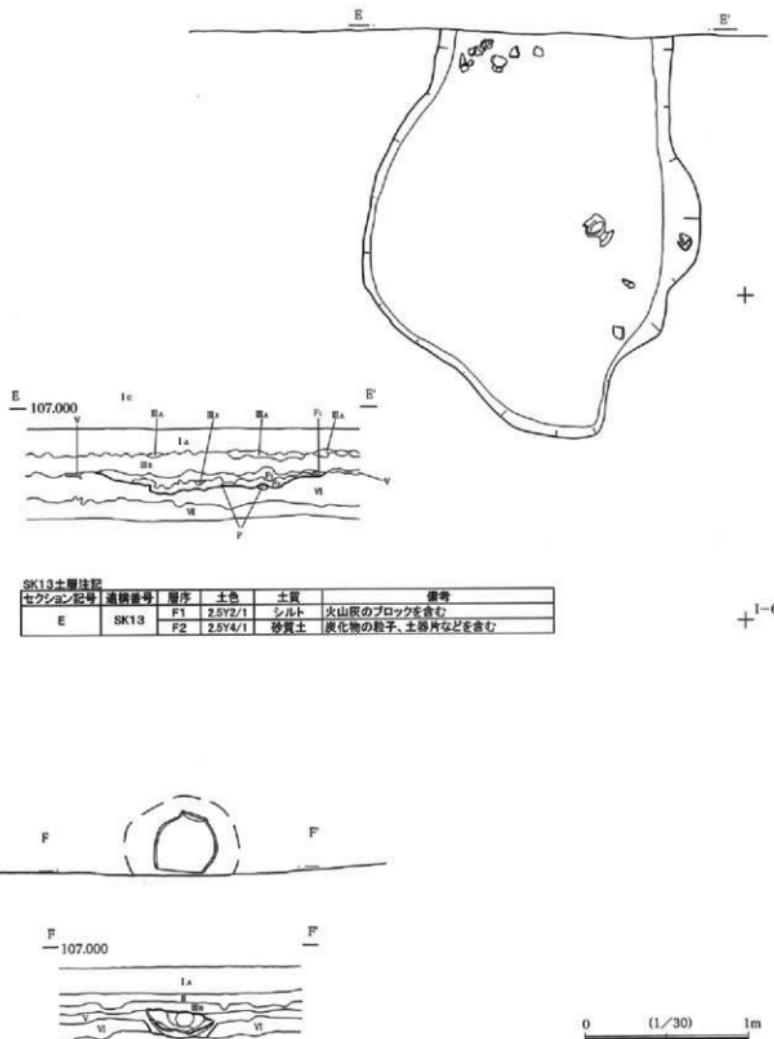
D区東部及びA区の南部で検出された一連の溝跡である。幅は1.5~2.0mで、検出面からの深さは1.6~2.9cmを測る。覆土中からは土師器の細片や自然木が出土する。まとまった土器の出土はみられなかったが、古墳時代に属すると思われる。

D区東部の調査区北壁及び東壁の断面観察から、SD 3の右岸には堤防状の高まりが築かれ、その先に平坦面が形成されていると考えられた。その平坦面には層厚7~10cm程度でブロック状の火山灰が水平に堆積している。北壁の断面観察から、SD 3の右岸「落ち際」にも同じ火山灰のブロックが観察されている。このことから火山灰の堆積時期はSD 3と同時期の可能性が考えられる。テフラ分析の結果では、「十和田a火山灰に同定される可能性は非常に低」く、「これまで山形市域ではほとんど知られていない特徴を持つテフラ粒子」であると報告されている。

またD区では、この火山灰層を含め、その上層及び下層でプラントオバール分析を実施している。その結果、「火山灰層直上のIII B層は稲作跡の可能性が高いが、火山灰層及びその下層は稲作跡の可能性は低く、ヨシの繁茂する湿地であった」と報告されている。



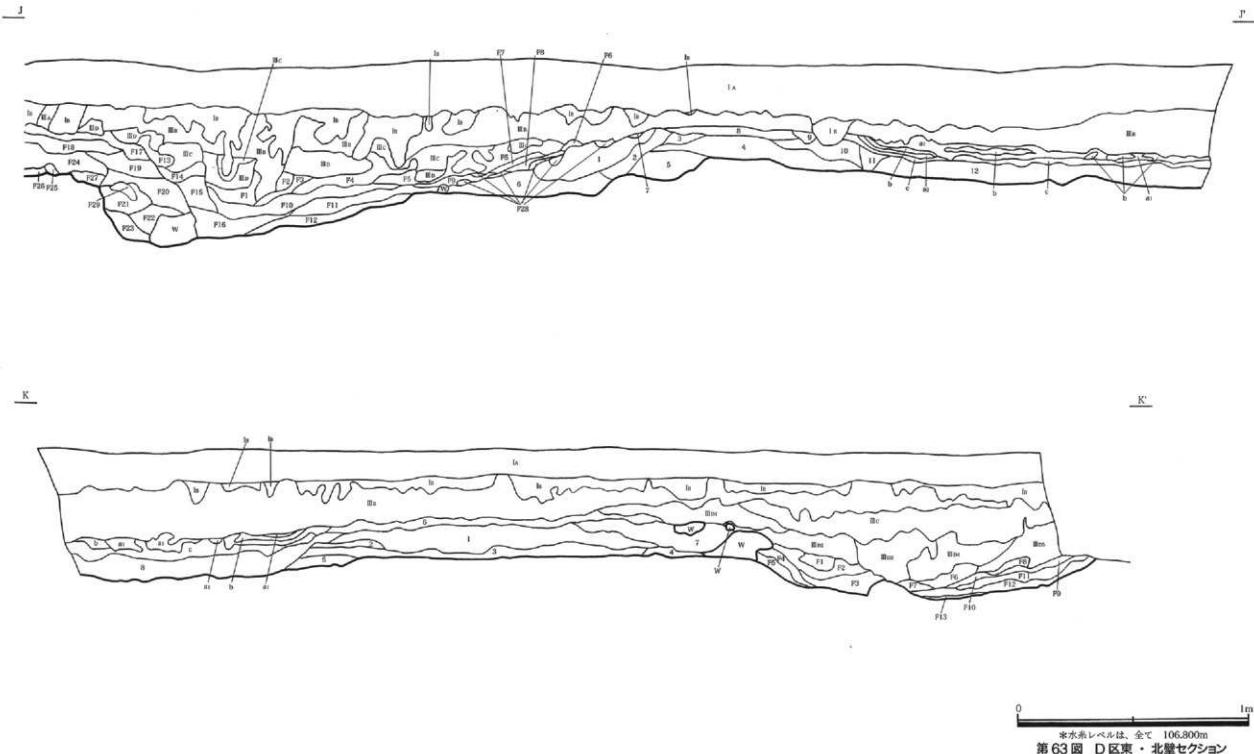
第61図 SB14



第62図 SK13・15

表 14 D区東・北壁土層記

セクション記号	層番号	土色	土質	備考
J	1	5Y 4/1	砂質土	粘性強
	2	5Y 4/1	砂質土	10Y4/1砂質土が混じる
	3	2.5Y 4/2	砂質土	10Y4/1砂質土が混じる
	4	10Y 4/1	砂質土	2.5Y4/1砂質シルトが混じる
	5	2.5Y 4/1	砂質土	砂
	6	2.5Y 3/1	砂質土	しまり強
	7	2.5Y 4/2	砂質シルト	
	8	2.5Y 4/2	砂質土	
	9	2.5Y 4/2	砂質土	2.5Y7/1粘土が混じる
	10	2.5Y 2/1	シルト	均質
	11	2.5Y 2/1	砂質シルト	
	12	2.5Y 4/1	シルト	均質
SD3	F1	5Y 3/1	シルト	均質な泥炭、粘性がない
	F2	5Y 3/1	シルト	均質な泥炭、粘性がない
	F3	5Y 3/1	シルト	2.5Y7/1シルトが混じる
	F4	5Y 3/1	シルト	泥炭
	F5	5Y 3/2	砂質シルト	泥炭、粘性強
	F6	5Y 3/2	砂質土	2.5Y4/1砂質土が混じる
	F7	5Y 3/2	砂質シルト	2.5Y7/1粘土が混じる
	F8	5Y 4/1	砂質土	均質、しまり強
	F9	5Y 4/1	シルト	粘性弱
	F10	2.5Y 4/1	シルト	均質な泥炭、粘性強
	F11	2.5Y 4/1	シルト	泥炭、粘性強
	F12	5B 4/1	粘土	しまり強、2.5Y7/1粘土が膠状に混じる
	F13	2.5Y 4/1	砂質シルト	5Y3/1シルトが混じる
	F14	5Y 4/1	シルト	5Y3/1シルトのブロックが少々混じる
	F15	5Y 4/2	シルト	5Y3/1シルトのブロックが少々混じる、植物質を含む
	F16	2.5Y 3/2	シルト	均質な泥炭
K	F17	2.5Y 4/1	砂質粘土	均質
	F18	5Y 4/1	砂質粘土	均質
	F19	5Y 4/1	粘土	粘性強
	F20	5Y 3/2	砂質シルト	均質
	F21	5Y 3/2	砂質シルト	2.5Y7/1粘土のブロック(φ5~10mm)が混じる
	F22	5Y 3/2	砂質シルト	植物質が混じる
	F23	5Y 3/2	砂質シルト	2.5Y7/1粘土のブロック、植物質が混じる
	F24	2.5Y4/1	砂質シルト	均質
	F25	7.5Y 5/2	砂	粘性弱
	F26	5Y4/1	砂質土	腐化物(φ5mm)を含む
	F27	2.5Y4/1	砂質シルト	粘性強
	F28	2.5Y7/1	粘土	均質、粘性強
	F29	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、粘性強
SD3	a1	2.5Y 5/2	砂質土	均質、粘性がない
	a2	2.5Y 5/2	砂質土	2.5Y7/1粘土が混じる
	b	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、粘性弱
	c	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、粘性強
	D1	2.5Y2/1	シルト	カクラニにより6~7層の土が混じる
	D2	2.5Y2/1	シルト	カクラニによりF1~F2層の土が混じる
	D3	2.5Y2/1	シルト	カクラニによりF3層の底層土ブロックが少々混じる
	D4	2.5Y2/1	シルト	カクラニにより下F0~F7層の底層土ブロックが多く混じる
	D5	2.5Y2/1	シルト	カクラニにより下FB~F9層の土が混じる
	1	2.5Y2/1	シルト	
	2	2.5Y5/1	シルト	均質
	3	5Y4/1	砂質シルト	2.5Y7/1粘土が混じる、腐化物のブロックを含む
	4	5Y4/1	砂質土	腐化物を含む
	5	5Y4/1	砂質土	腐化土が混じる
	7	7.5Y5/1	砂質土	均質
	9	5Y4/1	砂質土	粘性強
SD3	8	2.5Y2/1	砂質シルト	均質、水田耕作土の可能性がある
	F1	2.5Y4/1	シルト	2.5Y7/1シルトが混じる
	F2	2.5Y4/1	シルト	植物質を少々含む
	F3	2.5Y3/2	シルト	均質な泥炭、植物質を含む
	F4	2.5Y6/1	砂質土	2.5Y7/1粘土がブロック状に多く混じる
	F5	7.5Y4/1	砂質土	
	F6	5Y4/2	シルト	粘性弱
	F7	3Y3/1	シルト	植物質を含む、粘性強
	F8	3Y3/1	砂質土	
	F9	5Y5/1	砂質土	5Y7/1粘土がブロック状に混じる
	F10	5B3/1	粘土	5Y4/2砂質土が混じる
	F11	2.5Y3/2	砂質土	植物質を少々含む
	F12	5B3/1	粘土	しまり強、2.5Y7/1粘土のブロックが混じる
K	F13	2.5Y3/2	シルト	均質な泥炭、植物質を含む
	a1	2.5Y5/2	砂質土	均質、粘性がない
	b	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、2.5Y7/1粘土は粘性が強い
	c	2.5Y7/1	粘土	5B4/1粘土のブロックを含む、2.5Y7/1粘土は粘性が強い



#### 4 奈良・平安時代の遺構

##### (1) 溝跡

###### SD 8 (図版43)

C区からA区にかけて南北に延びる溝跡で、途中SG 11と切り合う。幅は0.7~1.5m、検出面からの深さは21~25cmを測り、約27mを検出した。断面は傾斜のゆるい「U」字形で、底面からは、底部に墨書のある完形の須恵器坏(1)が1点出土した。

###### SD 9 (第64図・図版43)

E区の西、SB 14とSG 11の間に位置する溝跡で、ほぼ南北に直線的に延びる。幅5.6~8.4cm、検出面からの深さは22~30cmを測り、約10mを検出した。断面はゆるい「V」字形で、覆土中からは土師器や赤焼き土器の細片が出土した。

##### (2) 土坑

###### SK 12 (第65図・図版42)

E区の中央、SB 14の東側に位置する、不整規円形を呈する土坑である。長軸が9.9cm、幅は5.1~7.4cm、検出面からの深さは1.0~1.2cmを測る。V層を掘り込んでおり、覆土中には焼土ブロックや炭化物、焼けた部材(42)、赤焼き土器の破片などが含まれる。

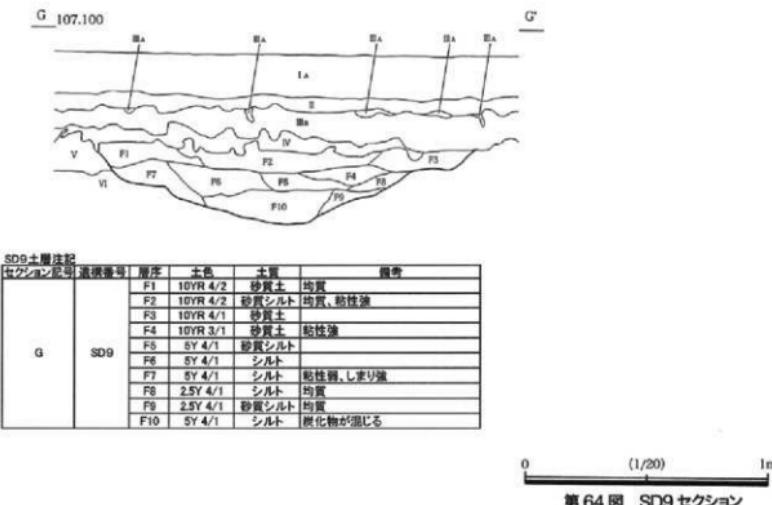
#### 5 出土遺物 (第66~70図・図版46~48)

遺物は、SK 13、SG 11、E区包含層を中心に、遺物整理箱にして約7箱出土した。概して平安時代の遺物は少なく、9割以上を古墳時代の遺物が占めており、坏・高坏・甕・壺・瓶・ミニチュア土器などの器種が確認されている。

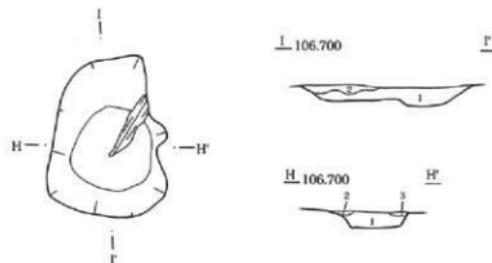
坏は、有段丸底のもの(a類)、椀型のもの(b類)、口縁部が屈曲して直立するもの(c類)に大きく分けられる。またa類はさらに、段が緩やかでやや不明瞭なもの(i)、外面に鋭く明瞭な段を有するもの(ii)、段が体部下半に位置し平底に近いもの(iii)、外面に段が認められず、内面の段のみが明瞭なもの(iv)に区別できる。また高坏はいずれも有段であるが、坏体部が内湾して立ち上がり、段がやや明瞭なもの(a類)、坏底部が比較的平らで、段がやや不明瞭なもの(b類)、坏体部が直線的に開き、段が明瞭なもの(c類)に大きく分けられる。脚部は短く寸胴で、脚裾部の先端が上方に反り上がるものが多く、概ね共通する特徴として捉えることができる。なお坏及び高坏のうち、半数近くが内面黒色処理される。

###### SK 13

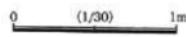
2は高坏a類で、内面が黒色処理される。段が明瞭で、口縁部は強くくびれて外反する。脚裾部の中ほどにやや膨らみをもつ。3は高坏b類に分類した。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施され、黒色処理される。9は内面が黒色処理されており、平らな底部が作り出されるやや特異な坏である。17は坏a ii類で須恵器蓋坏の模倣である。胎土が赤褐色で内面底部に中央から外に向かって放射状のミガキが観察される。関東の鬼高II式の坏と思われる。19は甕



第64図 SD9 セクション



セクション記号	追機番号	層序	土色	土質	備考
H/I	SK12	1	N 2/0	シルト	しまり弱、2.5Y8/2シルトのブロック(φ5~10mm)が少々混じる
		2	10YR 3/2	シルト	粘性強、しまり強、10YR2/1シルトのブロック(φ10~20mm)が少々混じる
		3	10YR 3/2	シルト	均質、植物質を含む



第65図 SK12

で、内面はヘラナデ、外面は体部が丁寧なミガキが施され、底部はケズリで丸底風に仕上げられる。口縁部はヨコナデされる。21は坏b類で、口唇部がやや外反する。体部外面は縦方向にミガキが施され、口縁部はヨコナデされる。22は壺と思われるが頭部から上を欠く。体部は扁平な球胴形で、広い底部が付く。23は坏c類で、口縁部が屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。24は高坏b類に分類したものである。短いが直線的な脚部を有し、脚裾部には2ほど顕著ではないが中ほどに微妙な膨らみがある。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施される。26は甌であるが、体部上半を欠く。胎土に礫が多く混じるが焼成は良好である。33は坏ai類に分類したが、口縁部が強くくびれて外反する。内外面とも丁寧なミガキが施される。36は甌で、体部は球胴形に近い形状を呈する。

#### E 区包含層

4・7は坏ai類に分類した。どちらも内面が黒色処理される。31も坏ai類に分類したが、内外面とも丁寧なミガキが施されるが、内面は黒色処理されない。34はaiii類としたもので、内面にのみやや明瞭な稜を有する。16・20は坏b類とした。16は体部に明瞭な輪積み痕を残し、口唇部はほぼ直立する。20も体部には明瞭な輪積み痕を残し、平底の底部外面には葉脈痕が観察される。5は高坏b類に分類した。内面は中央から外に向かって放射状のミガキが施され、黒色処理される。脚裾部の中ほどがやや膨らむ。18は高坏c類であるが、坏底部及び脚部を欠く。内外面とも細かなミガキが施される。外面に明瞭な段を有し、口唇部は玉縁状になる。27・28・30は甌であるが、いずれも体部下半を欠く。30は体部が球胴形になり、外反する口縁部の外面はヨコナデされる。14・15は手捏ねのミニチュア土器である。35は小型の甌である。断面は算盤玉形を呈し、内面はナデ、外面は丁寧なミガキが施される。口縁部付近に焼成前の穿孔が1ヶ所確認された。底部外面はやや磨滅が見られる。

#### SG 1 1

6は坏aiii類で、内面が黒色処理される。8は坏aiii類で須恵器蓋坏の模倣である。内面が黒色処理される。25は甌であるが体部下半を欠く。29は、体部から口縁部にかけて直立する器形で、輪積み痕を明瞭に残すが、器種は不明である。

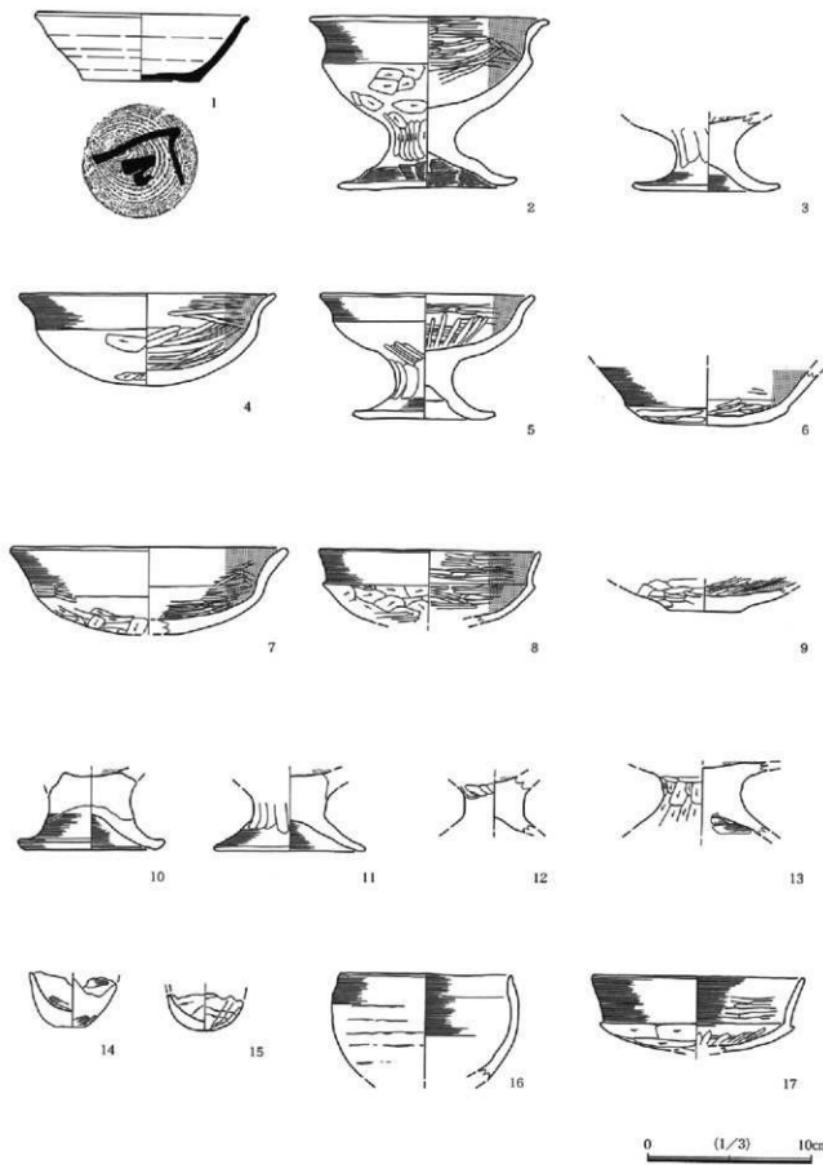
#### SK 1 5

37は大型の甌で、体部は球胴形を呈する。内外面とも激しいミガキが施されるが、所々に輪積みの痕跡が観察される。頭部から口縁部が直立し、口唇部が強く外反する。口縁部は内外面ともヨコナデされる。底部外面はナデで、外周には磨滅痕が観察される。なお、胎土中から炭化米が2点検出された。

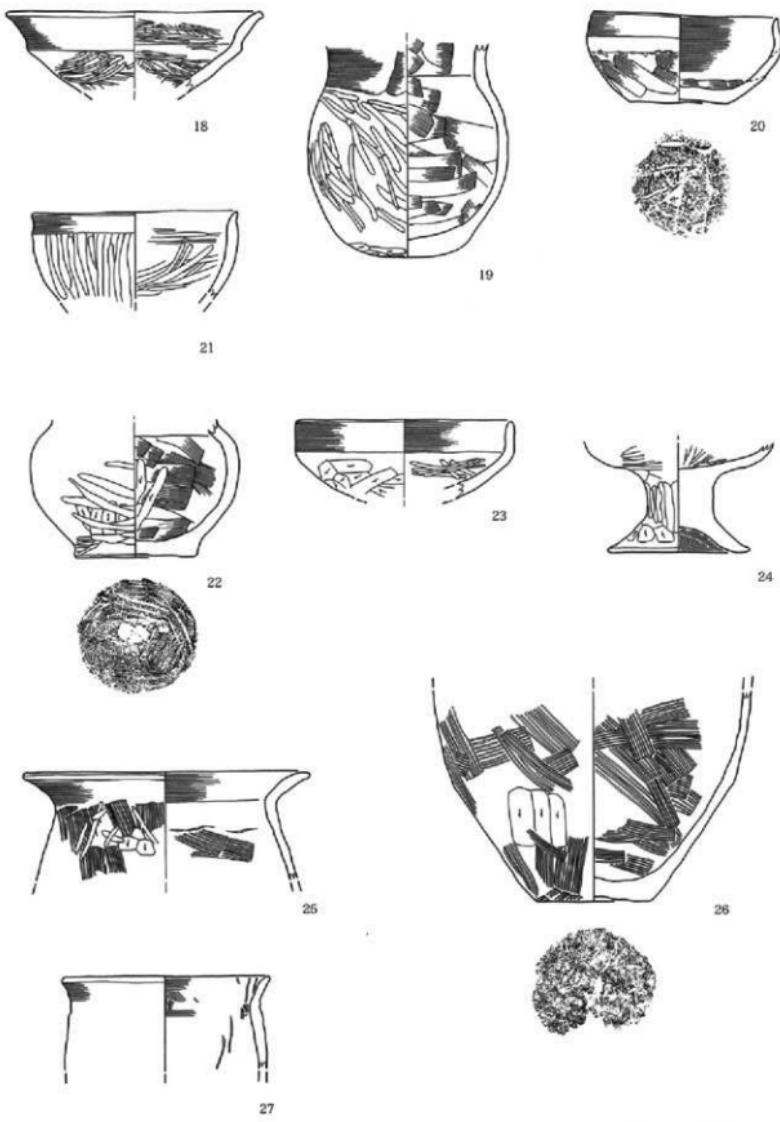
#### SD 8

平安時代の遺物で図化できたのは、SD 8から出土した須恵器の坏1点のみである。

1は、ほぼ完形の須恵器坏で、底径がやや大きく、体部は直線的に開く。底部切り離しは回転糸切りで、底部外面に墨書が認められるが文字は不明である。年代的には9世紀中葉頃と考えられる。

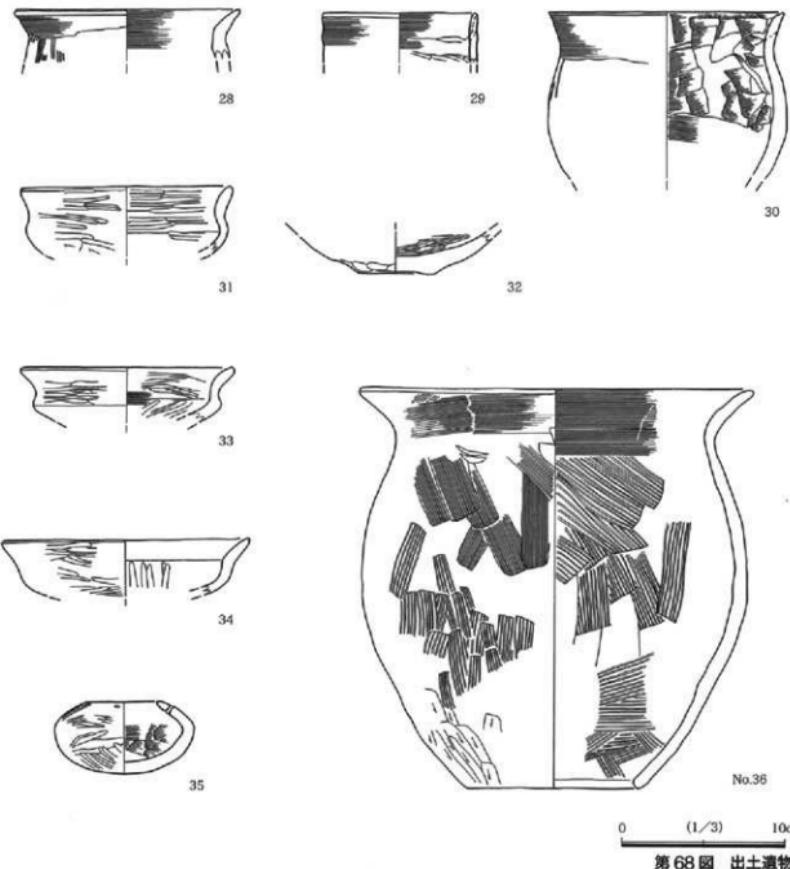


第 66 図 出土遺物①

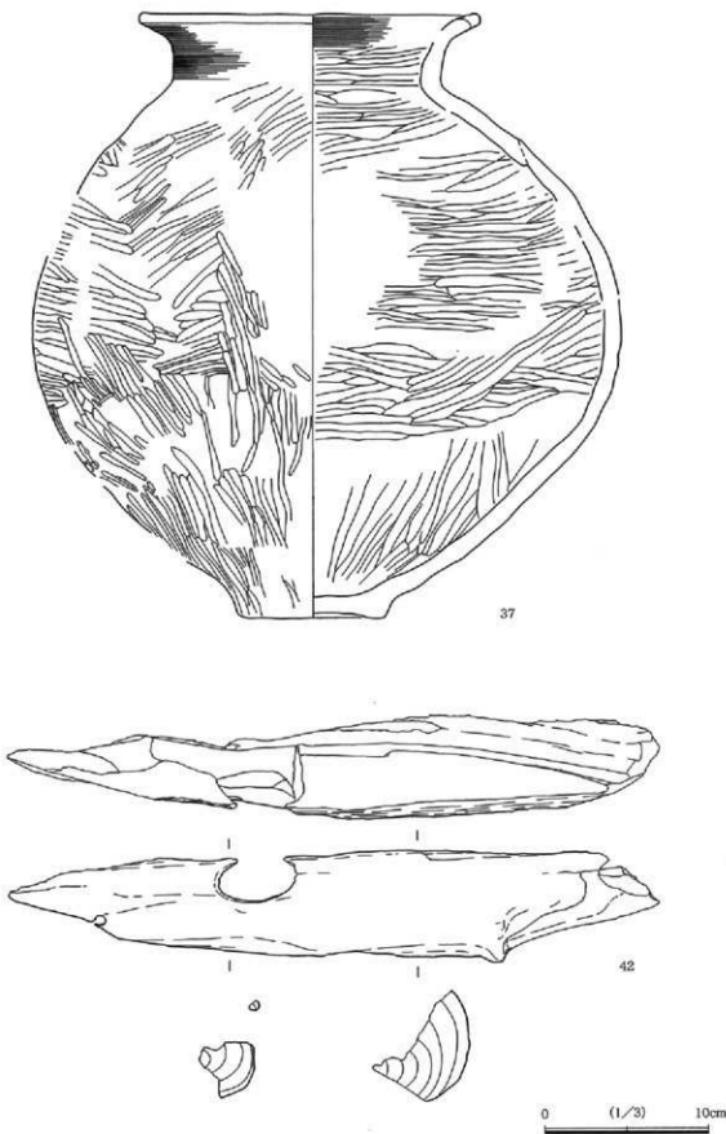


0 (1/3) 10cm

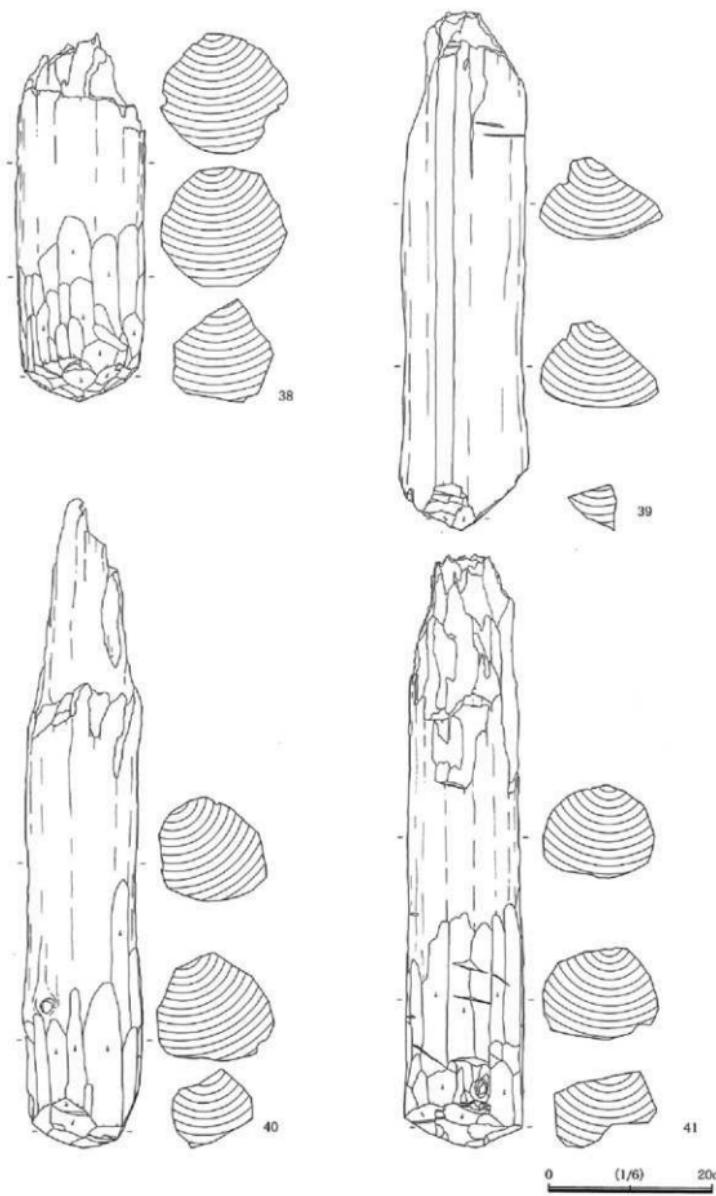
第 67 図 出土遺物②



第 68 図 出土遺物③



第69図 出土遺物④



第70図 SB14出土柱根

表-15 梅野木前2遺跡出土土器物類別表									
No.	地名	部位	種類	口径(cm)	縦寸(cm)	高さ(cm)	底面	外側	内側
1	SK13	道端	土器	手打	131.0	71.5	51.5	外側:ミガキ、底面:ミガキ	内側:土器が底面が削減、底土に埋がれしている。
2	SK13	道上	内底土師器	高杯	142.5	102.0	108.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ、底面:ミガキ
3	SK13	道上	内底土師器	高杯	135.5	56.5	56.5	外側:ミガキ	内側:ミガキ
4	EK	包含層	内底土師器	高杯	131.5	87.5	76.5	外側:ミガキ	内側:ミガキ
5	EK	包含層	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
6	SG11	道上	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
7	EK	包含層	内底土師器	片	[167.0]	64.0	64.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
8	SG11	道上	内底土師器	片	[135.5]	48.0	48.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
9	SK13	道上	内底土師器	片	-	90.0	90.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
10	EK	包含層	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
11	EK	包含層	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
12	EK	包含層	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
13	CIS	包含層	内底土師器	高杯	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
14	EK	包含層	手打土器	片	53.5	18.0	35.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
15	EK	包含層	手打土器	片	12.5	-	45.5	外側:ミガキ	内側:ミガキ
16	EK	包含層	土師器	片	[94.0]	-	114.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
17	SK13	道上	土師器	片	[120.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
18	EK	包含層	土師器	片	[154.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
19	SK13	道上	土師器	片	-	86.5	120.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
20	EK	包含層	土師器	片	112.0	60.0	55.0	外側:ミガキ	内側:ミガキ
21	SK13	道上	土師器	片	[124.5]	-	[128.0]	外側:ミガキ	内側:ミガキ
22	SK13	道上	土師器	蓋	-	76.0	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
23	SK13	道上	土師器	片	[130.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
24	SK13	道上	土師器	蓋	-	89.5	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
25	SG11	道上	土師器	蓋	[173.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
26	SK13	道上	土師器	蓋	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
27	EK	包含層	土師器	蓋	[128.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
28	SK11	道上	土師器	蓋	[137.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
29	SG11	道上	土師器	蓋	[92.5]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
30	EK	包含層	土師器	蓋	[143.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
31	EK	包含層	土師器	蓋	[126.5]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
32	EK	包含層	土師器	蓋	-	47.0	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
33	SK13	道上	土師器	片	[127.5]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
34	EK	包含層	土師器	片	[146.0]	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
35	EK	包含層	土師器	蓋	[40.0]	[44.0]	[65.0]	外側:ミガキ	内側:ミガキ
36	SK13	道上	土師器	蓋	[237.0]	[116.0]	[246.5]	外側:ミガキ	内側:ミガキ
37	SK15	道上	土師器	蓋	-	210.0	89.0	370.0	外側:ミガキ
38	SG14 P1	木製品	柱根	高	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
39	SG14 P2	木製品	柱根	高	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
40	SG14 P3	木製品	柱根	高	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
41	SG14 P4	木製品	柱根	高	-	-	-	外側:ミガキ	内側:ミガキ
42	SK12	木製品	脚付か	長	388.0	-	-	外六角	内六角
								高:67.0	

## 6 まとめ

調査の結果、古墳時代の遺構は打込み柱建物跡1棟・土坑2基・溝跡1条・川跡1条、平安時代の遺構は土坑1基・溝跡2条を検出した。遺物は土器を中心に、遺物整理箱にして約7箱出土したが、その9割以上は古墳時代の土師器が占める。ここでは今回出土した古墳時代の土師器の壊及び高壊を中心に、周辺遺跡の調査成果を踏まえて、その編年的位置づけを試みる。

昭和58～59年に山形市に隣接する中山町の三軒屋物見台遺跡が山形県教育委員会によって発掘調査が行われたが、その出土遺物は当地域の基準的な資料となっている。調査の結果、古墳時代後期を主体とする20棟を越える竪穴住居跡が検出された。これらの竪穴住居跡は、遺構の切り合い等からI～VI期に時期区分され、同時に出土した多量の土師器壊を基に、I期：塩釜式、II期：南小泉II式、III・IV期：未命名の型式、V・VI期：住社式に時期区分され、さらに各期は器形により複数の土器群に分類されている。

本遺跡の壊・高壊の器形分類と照らし合わせると、壊a i類は三軒屋物見台遺跡のIV期D群、壊a iv類は同じくIV期C群に類似すると思われる。同様に壊b類はIV期B群、壊c類はIV期E、壊a ii類はV期A群、壊a iii類はVI期B群にそれぞれ類似すると思われる。なお、17は関東の鬼高II式の壊で、6世紀の後半に位置づけられる。また19・20は壺であるが、これらも在地の土器にはあまり見られないものと思われる。

高壊では、高壊b類が山形市大字黒沢天神山遺跡出土の一群と類似する。天神山遺跡出土の土師器群については、川崎利夫氏が古墳時代第III期「天神山式」(6世紀)として形式設定したことがあり、引田式に並行する時期に位置づけられている。本遺跡で壊a ii類とした4・7がこれに含まれると思われ、6世紀でも住社式よりもやや先行する。10・11は高壊脚部で壊部を欠くが、天神山出土のものに類似する。高壊a類とした2、同じくc類とした18は、体部の段が明瞭になり高壊b類より下った時期に位置づけられる。

以上をまとめると、本遺跡の主体は、三軒屋物見台遺跡で分類されたところのIV期、川崎氏の編年に照らせば天神山式にあって、年代的には6世紀前半でこれが上限となると思われる。下限は鬼高II式の影響が及ぶ6世紀後半と考えられる。本遺跡が古墳時代の集落跡として継続した時期は、概ね6世紀代に収まり、鳴遺跡にやや先行する集落であったと考えられる。

(引用・参考文)

- 会津若松市教育委員会 1995『川原町口遺跡』会津若松市文化財調査報告書第3号
- 阿部明彦・木戸弘美 1999『山形県の古代土器編年』『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
- 尼崎市教育委員会 1982『田能遺跡発掘調査報告書』尼崎市文化財調査報告書第15集
- 石川七郎 1962『弥生式遺物を出した山形市七浦遺跡』『東北考古学』第3集
- 伊藤玄三 1958『仙台市西台埠出士の弥生式土器』『考古学雑誌』第44巻第1号
- 伊藤玄三 1961『東北日本における弥生時代の墓制』『文化』第25巻第3号
- 伊藤玄三 1993『仙台市西台埠弥生時代墳墓の再検討』『法政考古学』第20集
- 伊東信雄 1955『東北-各地域の弥生式土器』『日本考古学講座』第4巻
- 加藤 徒 1974『最上川流域の弥生式土器(1)』『研究紀要』山形県立山形中央高等学校
- 加藤 徒 1978『山形の弥生式土器』『北奥古代文化』第10号
- 加藤 徒・佐藤嘉弘・二瓶由佳 1986『最上川流域の弥生土器集成・資料編(II)村山編』『山形考古』第4巻第1号
- 加藤 徒・佐藤嘉弘・二瓶由佳 1986『最上川流域の弥生土器集成・資料編(II)村山編・遺物解説』『山形考古』第4巻第2号
- 川崎利夫 1979『山形県における土師器編年試論』『庄内考古学』第16号
- 佐藤信行 1966『山形県江俣の弥生式遺跡』『古代』第48号
- 須藤 隆 1990『東北地方における弥生文化』『考古学古史学論叢』伊東信雄先生追悼論文集刊行会
- 須藤 隆 2000『弥生時代の東北地方』『宮城考古学』第2号
- 仙台市教育委員会 1996『在中家南遺跡他』仙台市文化財調査報告書第213集
- 仙台市教育委員会 2000『高田B遺跡』仙台市文化財調査報告書第242集
- 玉口時雄・小金井靖 1984『土師器・須恵器の知識』『考古学の基礎知識』考古学シリーズ17
- 中村五郎 1976『東北地方南部の弥生土器編年』『東北考古学の諸問題』
- 名取市教育委員会 1980『十三塚遺跡-弥生時代の土壤墓群発掘調査報告書』名取市文化財調査報告書第8集
- 福島県教育委員会 1988『一ノ堰A・B遺跡』『国営会津農水水利事業開拓遺跡調査報告VI』福島県文化財調査報告書第191集
- 福永伸哉 1985『弥生時代の木棺墓と社会』『考古学研究』第32巻第1号
- 福永伸哉 1987『木棺墓』『弥生文化の研究』8祭と墓と装い』
- 福永伸哉 1991『木棺墓と人の交流』『原始・古代日本の墓制』山岸良二編
- 馬日順一 1982『橋葉天神原遺跡の研究』
- 馬日順一 1983『東北南部』『弥生土器』ニューサイエンス社
- 馬日順一 1987『幼児用の壺・甕棺墓』『弥生文化の研究』8祭と墓と装い』
- 森 幸彦 1992『竹島コレクション考古図録第3集 桜井 竹島國基編』第4章
- 山形県教育委員会 1979『山形西高畠地内遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財発掘調査報告書第17集
- 山形県教育委員会 1987『三町屋物見台遺跡発掘調査報告書(2)』山形県埋蔵文化財調査報告書第107集
- 山形県教育委員会・日本道路公团仙台建設局 1984『境田C・D遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第76集
- 山形県埋蔵文化財センター 1994『今堅遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集
- 山形県埋蔵文化財センター 2003『向河原遺跡現地説明会資料』
- 『山形市史 上巻』
- 『山形市史 別巻1 鳩遺跡』

## 報告書抄録

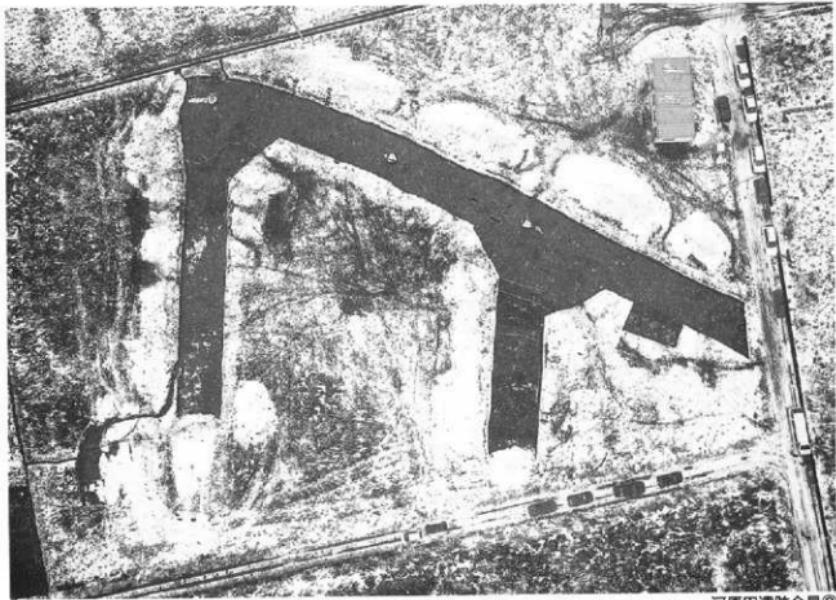
ふりがな	かわらだいせき・うめのきまえにいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	河原田遺跡・梅野木前2遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第22集						
編著者名	武田和宏						
編集機関	山形市教育委員会						
所在地	〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 Tel 023-641-1212						
発行年月日	2004年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
かわらだいせき 河原田遺跡	やまとさん 山形県 やまとたん 山形市 かわらだ 河原田	6201 平成4年 度登録	38度 17分 7秒	140度 19分 28秒	19991026 ~ 19991217 20000306 ~ 20000407	1,400	山形市端土地
うめのきまえにいせき 梅野木前2遺跡	やまとさん 山形県 やまとたん 山形市 うめのきまえ 梅野木前	6201 平成5年 度登録	38度 16分 38秒	140度 19分 17秒	20011003 ~ 20011204	1,000	区画整理事業
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
河原田遺跡	集落跡	弥生時代	墓跡 住居跡 川跡 土坑	6基 3棟 1条 1基	弥生土器 勾玉 柱根	10箱	
		奈良・平安時代	溝跡	6条	須恵器 赤燒土器 土師器 内黒土師器	20箱	
					鍍出土箱数:	30箱	
梅野木前2遺跡	集落跡	古墳時代	打込み柱埴跡 土坑 川跡 溝跡	1棟 2基 1条 1条	土師器 内黒土師器 柱根		
		奈良・平安時代	土坑 溝跡	1基 2条	須恵器 赤燒土器		
						鍍出土箱数:	7箱

# 写 真 図 版

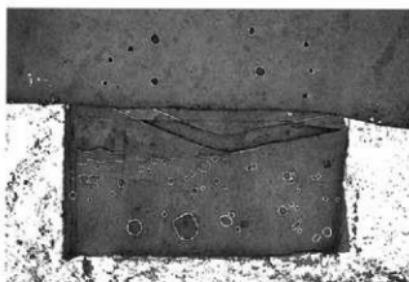




河原田遺跡全景①(北から)



河原田遺跡全景②



SI11 全景



SI11 EPI断面



SI11 EP4断面



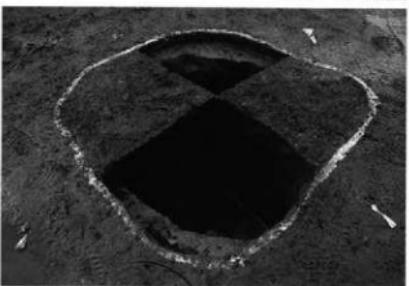
SI11 EP8断面



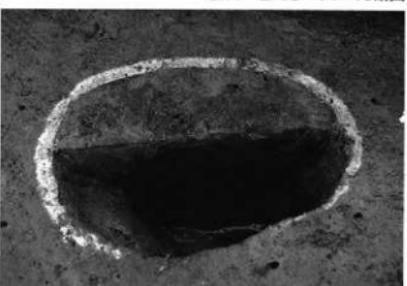
SI11 EP10断面



SI11 EP13・14・15断面



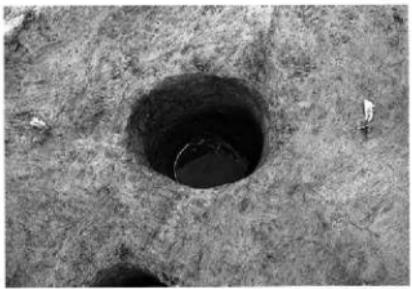
SI11 EP19断面



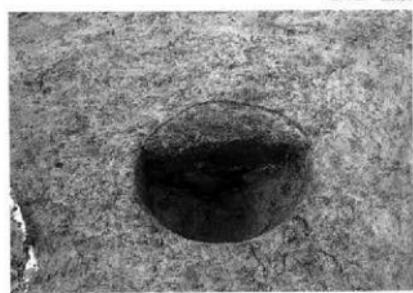
SI11 EP21断面



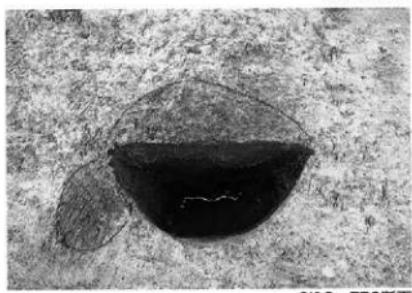
SI12 全景



SI12 EP1



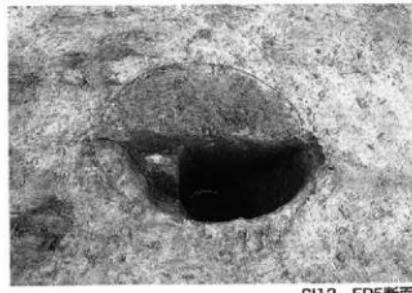
SI12 EP2断面



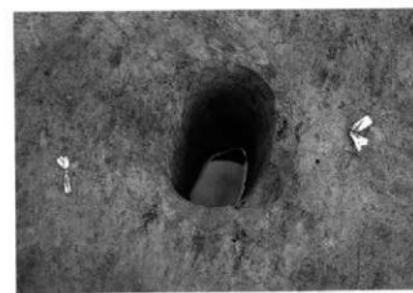
SI12 EP3断面



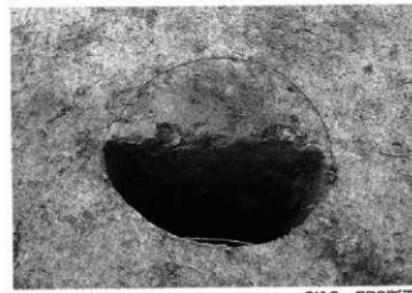
SI12 EP4断面



SI12 EP5断面



SI12 EP7



SI12 EP8断面



SI25 全景



SI25 EP1断面



SI25 EP1断面②



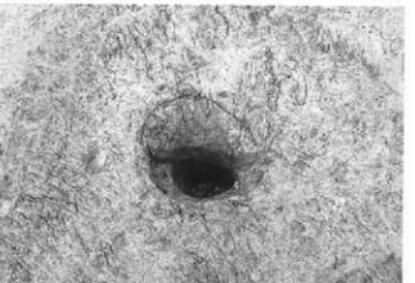
SI25 EP2断面①



SI25 EP2断面②



SI25 EP3・4断面



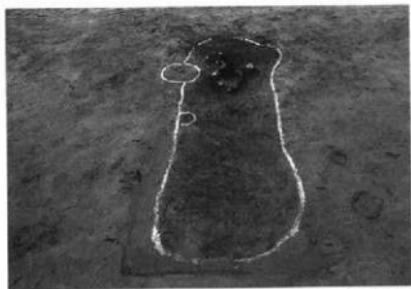
SI25 EP11断面



SI25 EP12断面



墓坑群 全景



SK5 検出状況



SK5 室内作業風景



SK5 造構切り取り作業前



SK5 掘り下げ状況



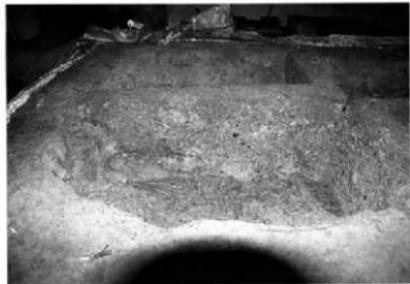
SK5 勾玉出土状況



SK5 完掘①(西から)



SK5 完掘②(東から)



SK5 A断面①



SK5 A断面②

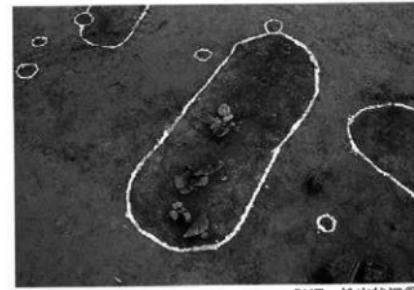


SK5 A断面③



SK6 土器出土状況

SK6 木棺痕跡検出状況(写真上が東)



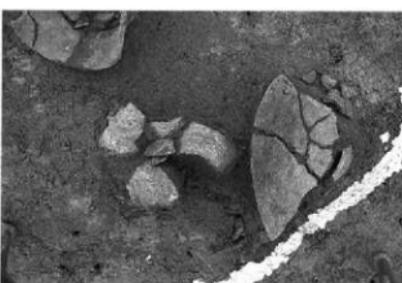
SK7 検出状況①



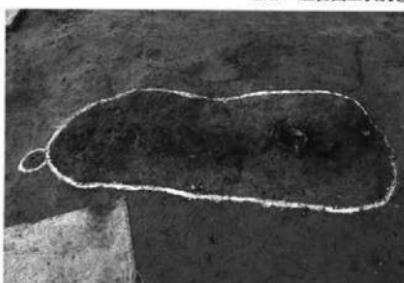
SK7 遺物出土状況①



SK7 遺物出土状況②



SK7 遺物出土状況③



SK7 検出状況②



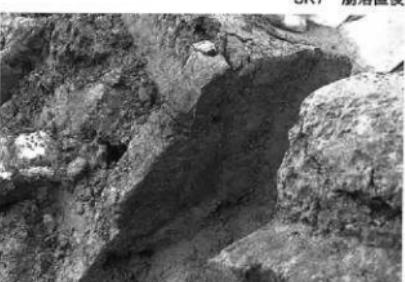
SK7 一部掘り下げる①



SK7 一部掘り下げる②(西から)



SK7 崩落直後



SK7 横断面 セクション



SK7 縦断面及び石検出状況



SK8 A断面



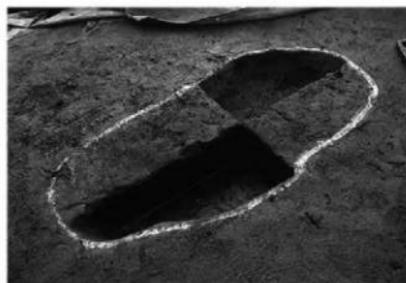
SK8 B断面



SK8 木棺痕跡検出状況①(写真上が西)



SK8 木棺痕跡検出状況②(写真上が東)



SK9 半裁状況



SK9 B断面



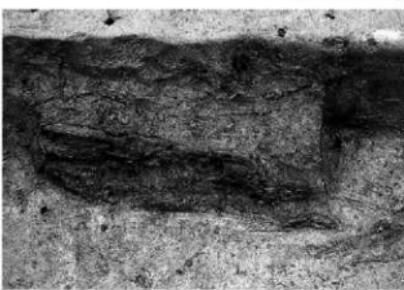
SK9 A断面



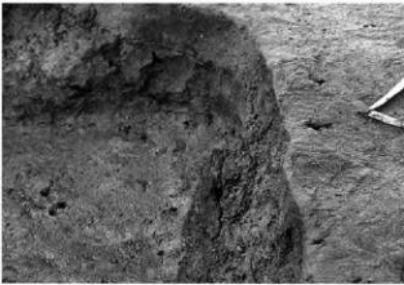
SK9 棺材検出状況①



SK9 棺材検出状況②(写真上が西)



SK9 棺材検出状況③



SK9 棺材検出状況④



SK10 半裁①(西から)



SK10 半裁②



SK10 半裁③



SK10 半裁④



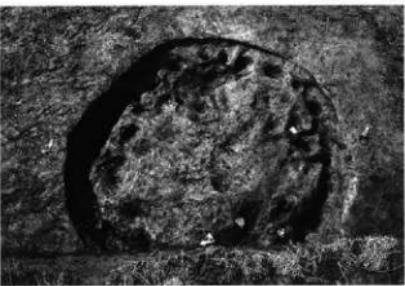
SK26 検出状況①



SK26 半裁



SK26 検出状況②



SK26 完擺



SG3 完掘



SG3 断面



SD4 遺物出土状況①



SD4 遺物出土状況②



SD13ほか検出状況



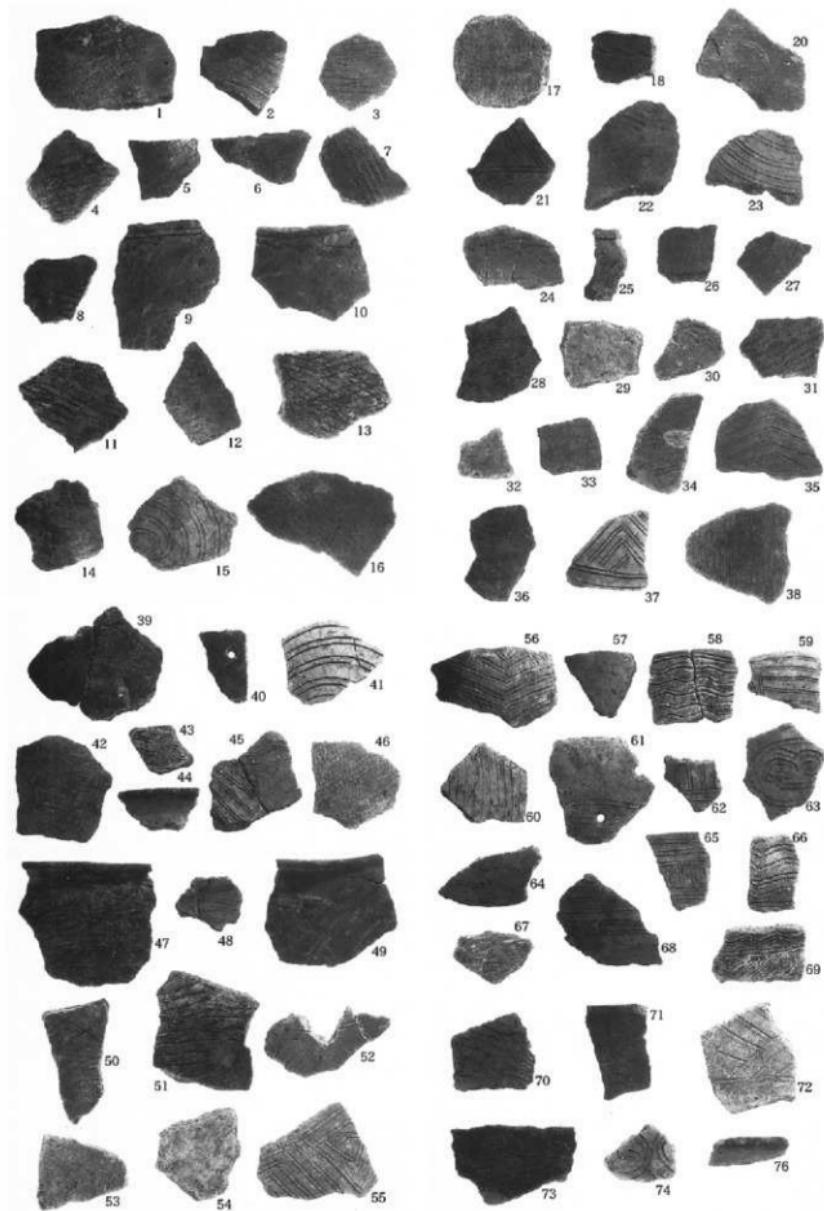
SD13 断面

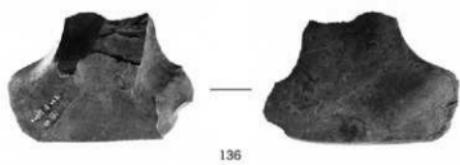
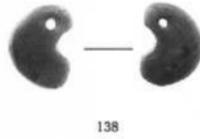
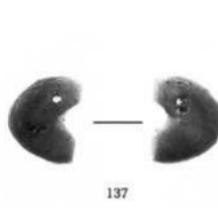
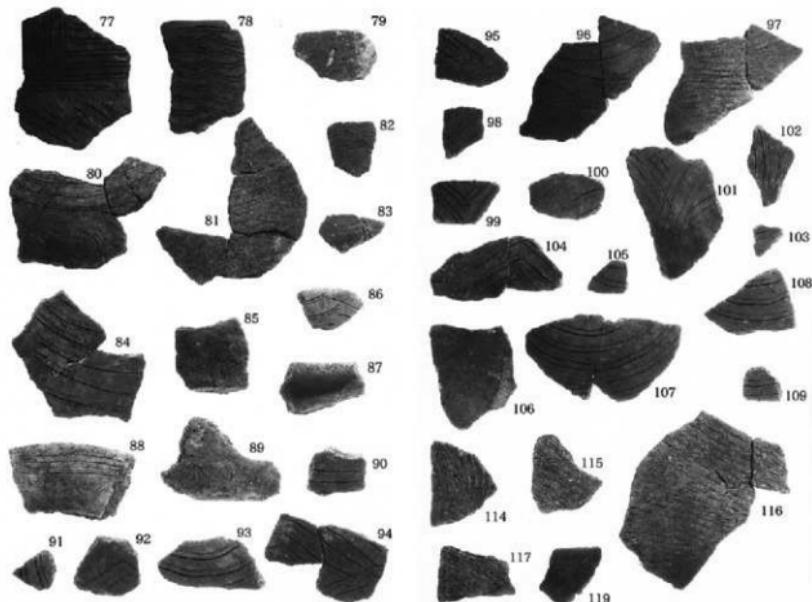


SD15 断面



SD16 断面





弥生時代出土遺物②



130



129



130 (真上から)



129 (真上から)



128



128 (真上から)  
SK5 出土土器①



126



127

SK5 出土土器②



133



SK6 出土土器



125



125 (真上から)



125 (内面)



124



123

SK7 出土土器①



131



131 (直上から)



131 (底部から)



131 (底部)

SK7 出土土器②



134



134 (底部)



134 (側面)



134 (鉢め上か6)

SK10 出土土器①



132



132 (内面)



132 (底部か6)



132 (侧面)



132 (底部)

SK10 出土土器②



118



19



118 (底部)



19 (底部)



112



110



120



113

122



113 (底部)

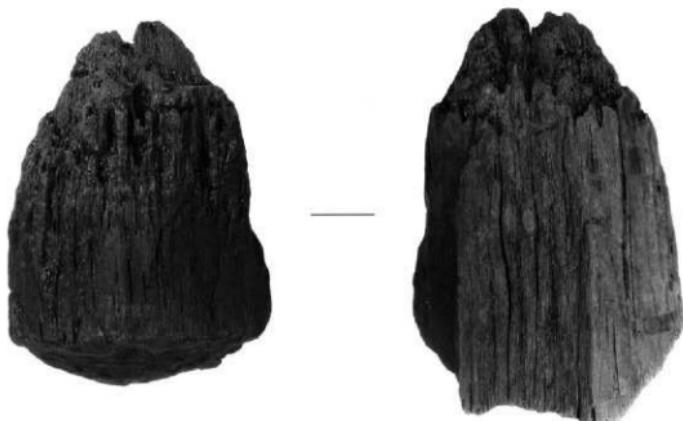


121



75

SG3 出土土器



139

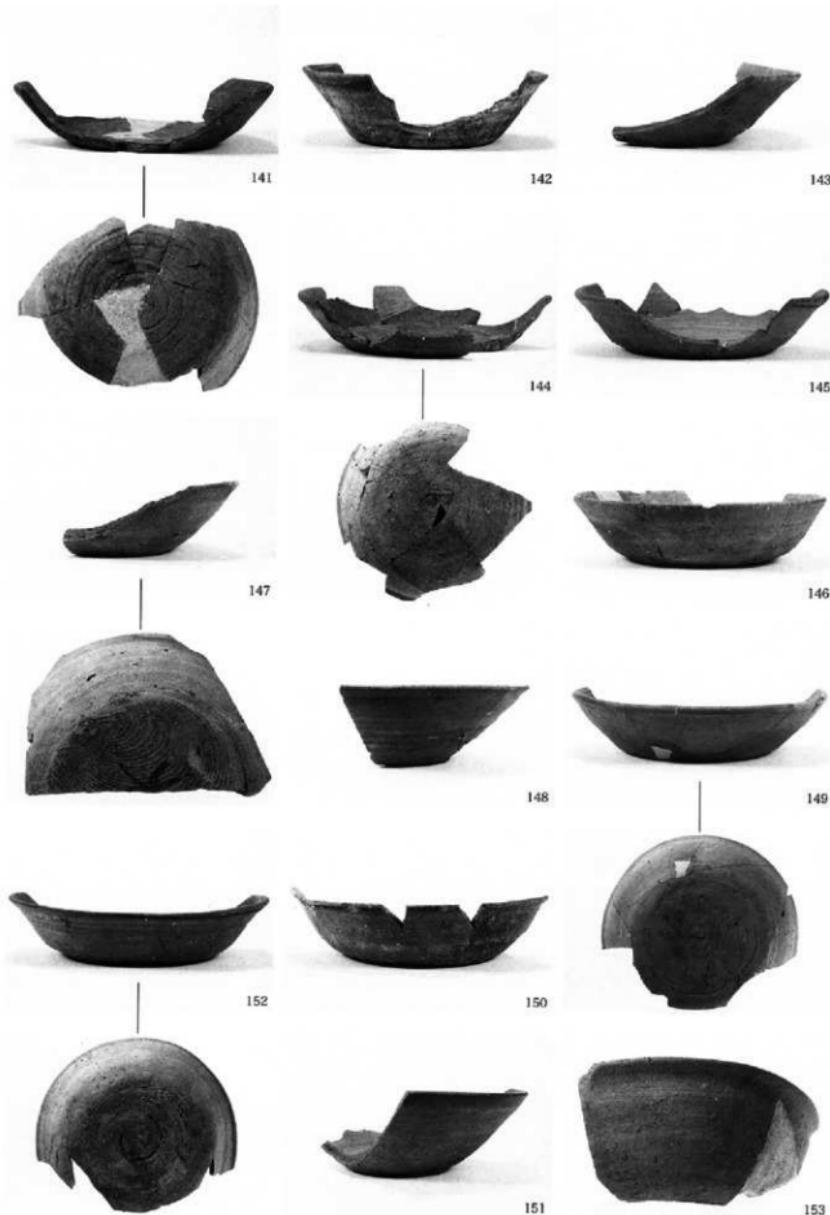


139 (加工面)

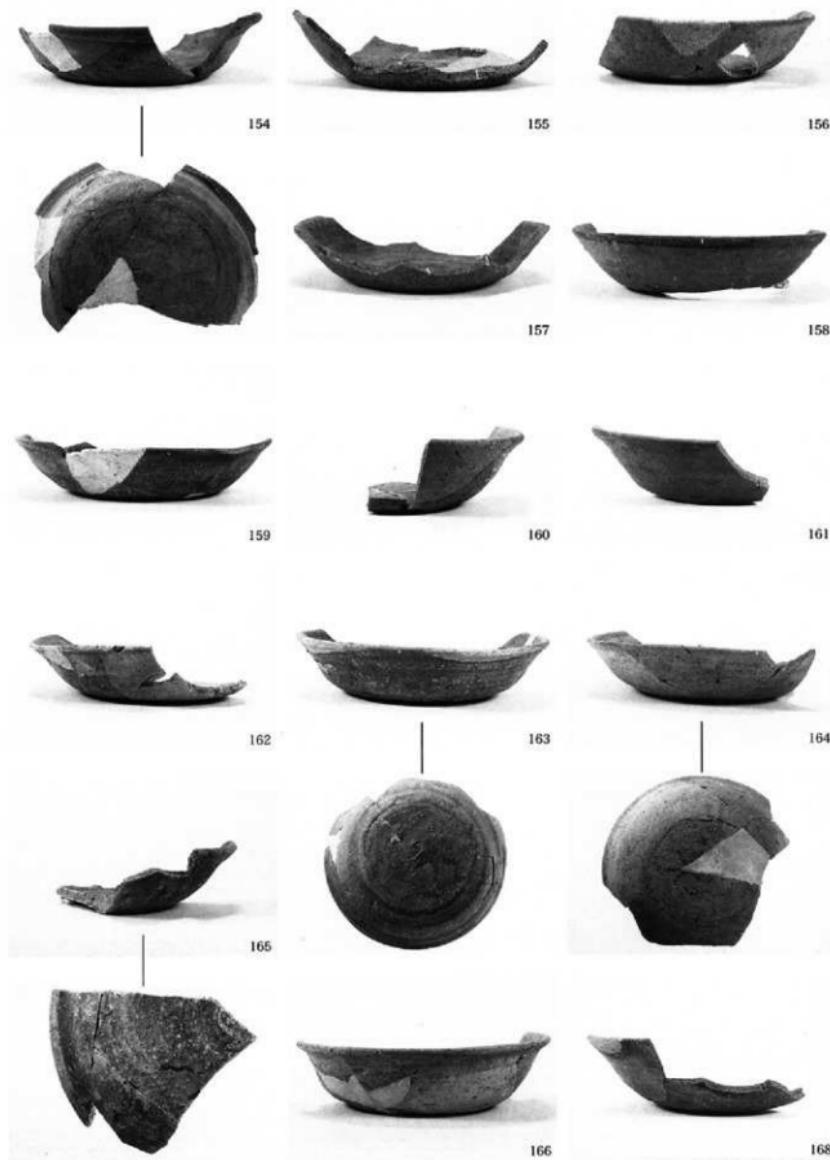


140

住居跡柱穴出土柱根



奈良・平安時代出土遺物①



奈良・平安時代出土遺物②



167



169



170



171



172



173



174



175



176



177



177



178



179



180



奈良・平安時代出土遺物③